

連携医療機関の紹介

ともなが内科クリニック

院長 朝長 昭光

祖父の代から続く「朝長医院」を継承し、当診療所の三代目の院長として、昭和六十三年五月、ともなが内科クリニック」と名称も変更して開業いたしました。長崎大学医学部第二内科呼吸器・免疫グループに所属していた関係上、医療センターには呼吸器、腎臓、消化器、そして循環器の一部の先生方が私の後輩となり、患者さんの紹介においてとても助けて頂いております。最後の勤務は県庁内診療所(午前中。午後は大学で研究)で二年間。開業にとっても役に立つ機会でもあり、また、多くの



人脈を得た所でもありました。開業当初は、小児科も少なく、子供さんを診る機会も多かったのですが、現在はほとんどが高校生以上です。でも、出来るだけ家族の皆さんのかかりつけ医として、家族ぐるみで診ることに重点を置いています。また、「患者さんの家が入院ベッドたい」と父に言われ、開業当初から往診に走り廻っていました。水曜・木曜日の午後の数時間は定期の往診時間としています。自分に任せて頂いた患者さんは通院できなくな

れば家に訪問(訪問診療)、責任持って最後まで看取どきたい。そしてこれまで数多くの患者さんを在宅で看取ってきました。これから在宅医療が更に必要となる時代となりますが体力の続く限り、訪診して行きたいと思っております。

診療は、患者さんに分かりやすい診療を。なぜかのように診断するの、なぜこの薬を飲んでもらうのか、など、分かりやすい説明をスタッフ一同と心がけています。薬の飲み方、吸入薬の吸入の仕方なども薬局と二方所で聞いた方がより分かりやすいという考えから、キッチンと説明をしています。

来院される患者さんのほとんどは生活習慣病や呼吸器関係の患者さんですが、通院されていた高齢の患者さんが転倒骨折し、当院の玄関で顔が見れなくなってしまうことを度々経験し、運動の必要性を痛感しました。長男が健康運動指導士として水中運動を専



医療法人
ともなが内科クリニック
〒856-0828 大村市杭出津2丁目555
TEL:0957-54-5000、FAX:0957-53-4131

門に勉強してきたことから、平成十九年十月より、クリニックに生活習慣病予防センターを新しく併設いたしました。生活習慣病予防センターでは理学療法士、健康運動指導士、管理栄養士を配置し、プールでの水中運動を中心としたリハビリテーション、疾病予防のための運動療法、また栄養指導、料理教室も行っています。クリニックでのプール設備は市内唯一であり、治療目的だけでなく、健康づくりの場としても活用していただいています。

出口小児科医院

院長 出口 貴美子

前院長(出口経雅)が昭和四十四年に当地で開業し、平成十八年五月より私が院長に就任して、今年で九年目を迎えるようとしています。安心安全かつ的確な医療を地域で行なう上で、長崎医療センターとの円滑な連携はとても大切です。何時も快く対応していただけてます事に感謝申し上げます。

当院は、小児科医三名(Dr.出口、Dr.北條、Dr.神田)、精神科医一名(Dr.井上)を中心とし、約三十名の職員で構成します。小児科は、一般診療の他に、予防接種や発達外来(乳幼児健診から言葉や運動発達の遅れ、発達障害など)に力を入れており、リハビリ部門として、言語聴覚士、音楽療法士、心理士、運動療法士に加え、この夏より作業療法士、理学療法士を配置します。また、この四月より当院敷地内に、名称「Risana520」(児



出口小児科医院
〒856-0024 長崎県大村市諏訪3-78
TEL:0957-52-2252 FAX:0957-52-5014
web page: http://www.deguchi-pc.com/

童発達支援・放課後等デイサービスを併設し、障がい児への細やかな支援を目指して参ります。精神科は、月に一回、不定期ですが、お子さんをお持ちの保護者の心の問題や思春期の心の問題を主に診ています。その他「Love & Safety」おむら・こと

もを事故から守るプロジェクトの拠点として、子供の事故予防活動を行なっています。これまで、長崎医療センターでの事故データの科学的分析から、大村のことも達の重症事故は自転車事故であることが分っています。また、日本救急医療教育機構長崎トレーニングサイトを併設しており、アメリカ心臓協会認定のBLSおよびファーストエイドコースを定期的に開催しております。当院は、笑顔でコミュニケーションをモットーに、患者サービスの向上、子育てしながらも働きやすい職場環境を目指し、地域のことも達の健やかな成長と輝く未来を応援するために、今後も精進して参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

毎週月・金曜日の午後三時五十分から放送されているテレビ長崎(KTN)の「ヨジマル」に、「長崎医療センター」について多くの皆さんに知ってもらおう、「取り組んでいる医療について多くの皆さんに知ってもらおう」とを目的として始まった「ヨジマル」出演ですが、実は私は怖くて、嫌だまりませんでした。

「癌治療シリーズ」で外科の各分野の治療を紹介することになっても逃げまわっていました。しかし、逃げる理由も尽き、平成二十六年十二月二十四日に出演することになりました。一週間前に、KTNの担当ディレクターが来院し出演についての概略を説明してくれましたが、首尾よくいか不安でいっぱいでした。

私は、「肝細胞癌の治療」について話すこととし、話す内容のスライドを十枚ほど作成し、台本(私のしゃべり原稿)も作成しました(KTN側と三回のやり取り)。そのディレクターは、今思えば安心させるためでしょう、「台本通りでなくとも大丈夫です。」と言ってくれました。一週間の悶々とした日々を過ごした後十二月二十四日の朝を迎えました。私は、朝から自宅で練習を行いました。ディレクターの言うてくれたことを思い出し、調子に乗って台本を少し変更し暗記してスタジオに向かいました。当日は、駅伝放送のため、「ヨジマル」は四時五十分ごろからのいつもより一時間遅れの開始でした。私は、三時頃にKTNへ行き、心臓バクバクの状態で待機していました。四



副院長 藤岡 ひかる

時三十分ごろからリハール開始です。「好きにしゃべってください。」という言葉を真に受けて、暗記してきたことを滔々としゃべりました。しかし、司会のアナウンサーは用意していた台本通りと思っているので、私のしゃべりとかみ合いません。しかも、時間も七分五十秒でした。大変なことにさせてくれと申し出ましたが、時間がないため無理ということでした！

そこで、不本意でしたが仕方なく、前もって作成していた台本通りにしゃべることになりました。しかし、暗記してないので台本を見ながらということになりました。これも、台本を見ないで格好良く話をする夢を見ていた私としては忸怩たるものがあります。リハール終了から本番まで二十分くらいの時間がありましたが、本番での修羅場を想定して気もそぞろでした。KTNの皆さん方がいろいろ声を掛けてくれましたが、それどころではありません。そうこうしているうちに、本番となりました。もうどうにもなれと、台本をセットのテーブルの上に置き、司会者の言うがままに、台本を読み上げて終了しました。ディレクターから「先生、時間もびつたりでOKです。少し心配してましたがさすがですね。」とほめられました。何が、さすがなのか分かりませんが、出演する外科のみんなを「医療センターに泥を塗るなよ！」と脅していました。私自身が泥を塗る瀬戸際でしたが、そうならなくて良かったです。ホッとしました。もうテレビ出演は懲り懲りです(私の出演場面のDVDを貰いましたが未だに見ていません)。

最後になりましたが、KTNの皆さん、自分勝手なことを考えていた厄介な出演者で申し訳ありませんでした。いろいろありがとうございました!!